

「景気動向に関するアンケート調査」報告書

令和6年12月

【調査趣旨】

神栖市商工会会員事業所の現状把握および今後の支援策について検討することを目的とする。

【調査概要】

調査時期:2024年7~9月

調査対象:商工会会員事業所等

調査方法:窓口・FAX・Webアンケート

回答数:90件

【今回調査の業種別DI】(令和6年7~9月を令和6年4~6月と比較)

単位:%

項目\業種	全業種	製造業	小売業	建設業	卸売業	サービス業
3. 景況感	△22.2	0.0	△38.9	△14.8	△20.0	△32.1
4. 売上	△26.6	△33.3	△33.3	△25.9	0.0	△35.7
5. 仕入(原材料)価格	65.6	100.0	55.6	66.7	100.0	64.3
6. 利益	△35.6	△66.7	△27.8	△14.8	△60.0	△53.6
7. 資金繰り	△20.0	△66.7	△27.8	△7.4	△20.0	△28.6
8. 3ヶ月先の見通し	△15.6	33.3	△27.8	△7.4	△20.0	△28.6

<DIとは?>

DIとは、「良い」と回答した企業の割合 - 「悪い」と回答した企業の割合を算出したもので、算出したDIの数値は大きい(プラスになる)ほど景気が良くなっていると判断されます。(※仕入価格以外)

※仕入価格のDI値は、マイナスとなる事が理想だが、プラスになっていても価格転嫁が適正に行われ、利益が増加していれば問題ないと考えられます。

【例】

売上DIの算出方法:集計結果 ①上昇した16.9% ②変化なし45.8% ③減少した37.3% ⇒
① - ③(16.9-37.3)=△20.4 となります。

仕入DIの算出方法:集計結果 ①上昇した71.1% ②変化なし25.3% ③減少した3.6% ⇒
① - ③(71.1-3.6)=67.5 となります。

【アンケート結果(全業種)の概要】 ※前ページの集計に対するコメント

<景況感> 前回の統計(次ページ「前回調査からの推移」参照)より△23.5ポイントと景気の持ち直しが感じられなかった。また、製造業で0.0と変わらなかったが、小売業で△38.9ポイント悪化最も大きく業種間で大きな差が表れている。

<売上> サービス業で△35.7ポイントと全業種の中で減少割合が最も多くなっている中で卸売業は0.0と前回と変わらなかった。

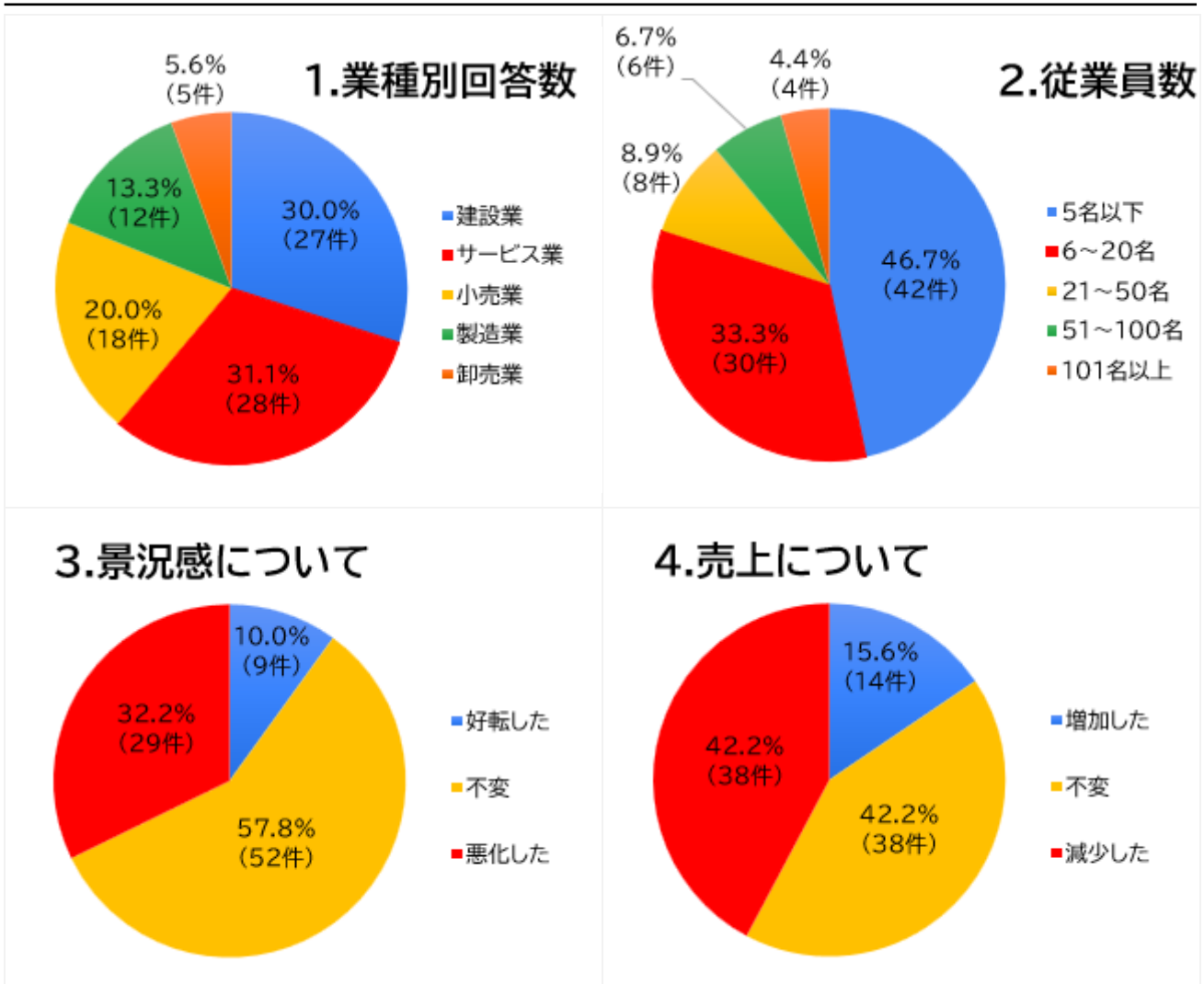
<仕入(原材料)価格> 全業種で軒並み高い数値となっており、依然、仕入・原材料価格の高騰が収まらず、多くの事業所の経営に影響を及ぼしている。

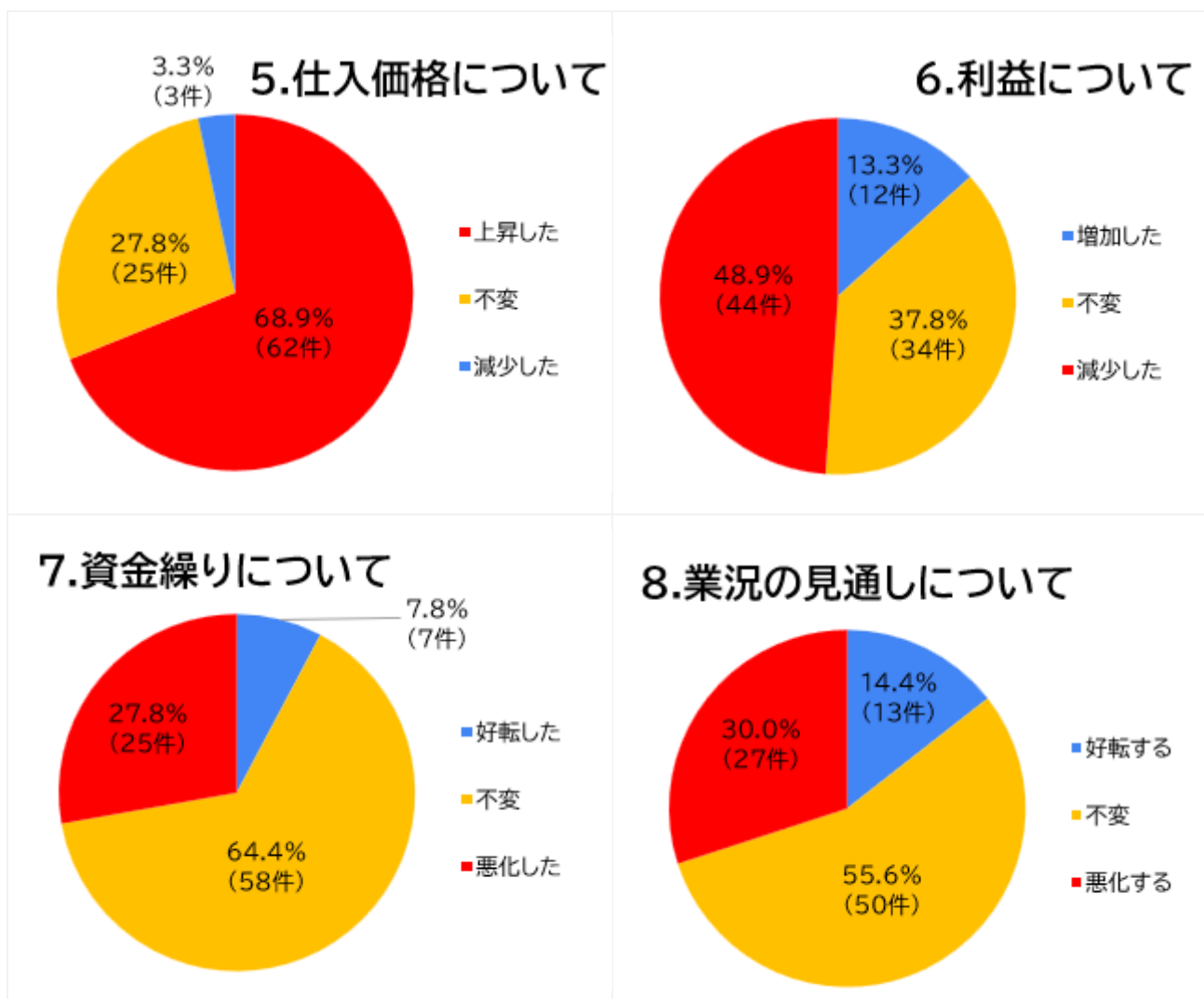
<利益> 小売業では前回の統計から36.8ポイント改善がみられたものの、仕入・原材料価格の高騰の影響からか依然として各業種で利益が減少している。

<資金繰り> 資金繰りについては依然厳しい事業所が多く、小売業では前回よりも12.2ポイント改善したが、全業種の平均は前回の調査よりも△20.0ポイントの悪化となっている。

<3ヶ月後の見通し> 卸売業では前回の調査よりも70.0ポイント度悪化したが、製造業では「好転する」が「悪化する」を上回り業況の回復を見込んでいる事業所が多い。

【アンケート結果(全業種)の詳細】



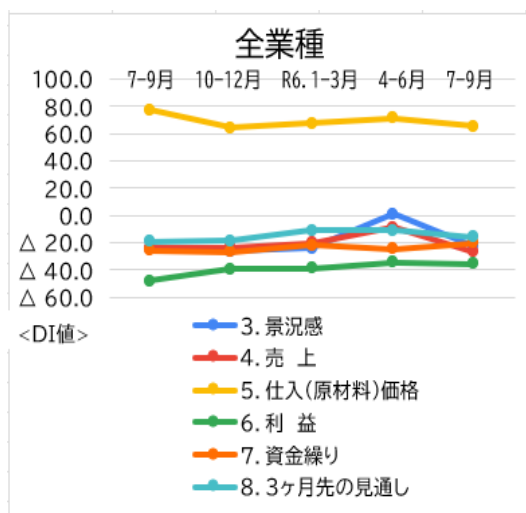


【前回調査からの推移】

[全体の概要]

項目\業種・期間	全業種				
	R5.7-9月	10-12月	R6.1-3月	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 24.8	△ 26.3	△ 24.0	1.3	△ 22.2
4.売上	△ 24.1	△ 23.6	△ 20.4	△ 8.7	△ 26.6
5.仕入(原材料)価格	77.4	64.1	67.5	71.6	65.6
6.利益	△ 48	△ 39.3	△ 38.6	△ 34.5	△ 35.6
7.資金繰り	△ 26	△ 26.6	△ 21.7	△ 24.7	△ 20.0
8.3ヶ月先の見通し	△ 19	△ 18.7	△ 10.8	△ 10.8	△ 15.6

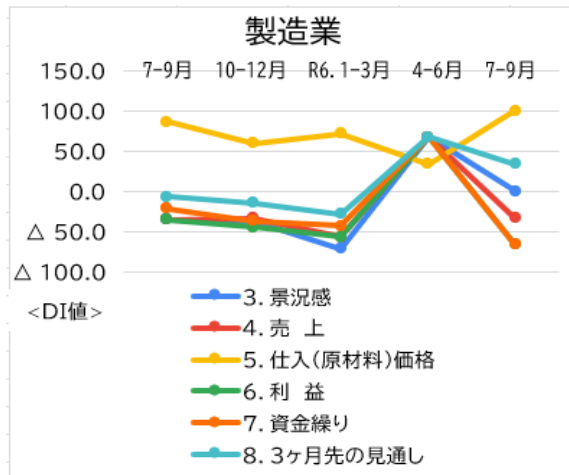
前回の結果と比べ全体的に動きは小さいが、仕入価格については6.0ポイント改善となった。しかし、景況感は20.9ポイント、売上は17.9ポイント悪化しており、事業所においては今後も厳しい状況が続くことが予想される。



[製造業の概要]

項目\業種・期間	製造業				
	R5.7-9月	10-12月	R6.1-3月	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 35.8	△ 37.0	△ 71.4	66.7	0.0
4.売上	△ 35.7	△ 33.3	△ 57.1	66.7	△ 33.3
5.仕入(原材料)価格	85.7	59.3	71.4	33.3	100.0
6.利益	△ 35.7	△ 44.5	△ 57.1	66.7	△ 66.7
7.資金繰り	△ 21.5	△ 37.0	△ 42.9	66.7	△ 66.7
8.3ヶ月先の見通し	△ 7.2	△ 14.8	△ 28.6	66.7	33.3

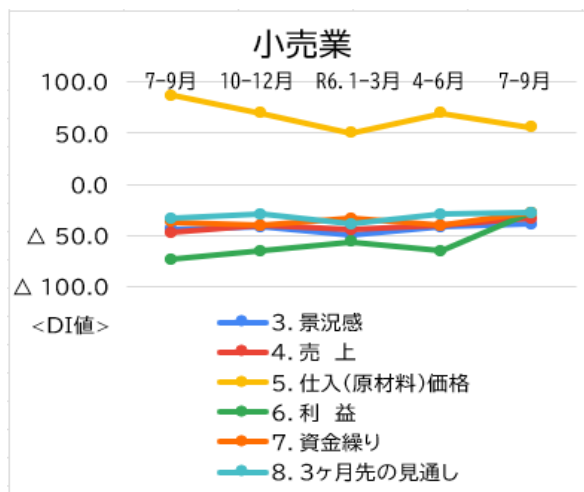
製造業では全体的に悪化している。特に売上に関しては100.0ポイント、仕入価格に関しては133.4ポイントの減となっており前回調査時よりも悪化している。



[小売業の概要]

項目\業種・期間	小売業				
	R5.7-9月	10-12月	R6.1-3月	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 43.3	△ 41.6	△ 50.0	△ 41.6	△ 38.9
4.売上	△ 46.7	△ 40.0	△ 44.4	△ 40.0	△ 33.3
5.仕入(原材料)価格	86.7	69.2	50.0	69.2	55.6
6.利益	△ 73.4	△ 64.6	△ 55.6	△ 64.6	△ 27.8
7.資金繰り	△ 36.7	△ 40.0	△ 33.3	△ 40.0	△ 27.8
8.3ヶ月先の見通し	△ 33.3	△ 29.2	△ 38.9	△ 29.2	△ 27.8

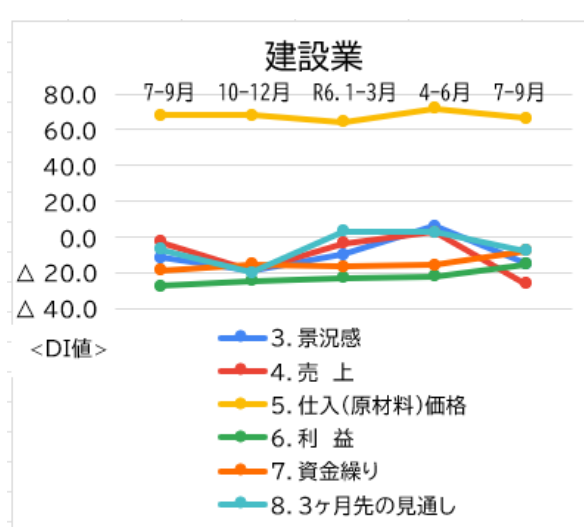
小売業では全体的に改善している。売上で6.7ポイント、利益で36.8ポイント、資金繰りで12.2ポイント増となっており、前回調査時よりも好転している。



[建設業の概要]

項目\業種・期間	建設業				
	R5.7-9月	10-12月	R6.1-3月	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 11.4	△ 18.2	△ 9.7	6.3	△ 14.8
4.売上	△ 2.3	△ 18.2	△ 3.2	3.1	△ 25.9
5.仕入(原材料)価格	68.2	68.2	64.5	71.9	66.7
6.利益	△ 27.3	△ 24.3	△ 22.6	△ 21.9	△ 14.8
7.資金繰り	△ 18.2	△ 15.2	△ 16.1	△ 15.6	△ 7.4
8.3ヶ月先の見通し	△ 6.8	△ 19.7	3.2	3.1	△ 7.4

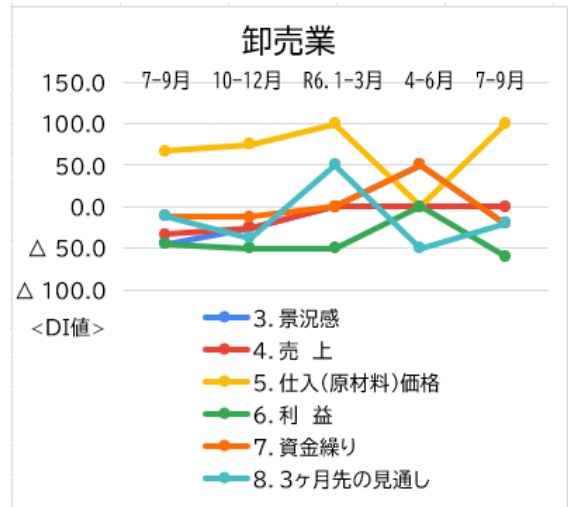
建設業では利益で7.1ポイント、資金繰りで8.2ポイント増となっているが、景況感で21.1ポイント、売上で29.0ポイント減となっており、厳しい状況が予想される。



[卸売業の概要]

項目\業種・期間	卸売業				
	R5.7-9月	10-12月	R6.1-3月	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 44.5	△ 25.0	0.0	50.0	△ 20.0
4.売上	△ 33.3	△ 25.0	0.0	0.0	0.0
5.仕入(原材料)価格	66.7	75.0	100.0	0.0	100.0
6.利益	△ 44.5	△ 50.0	△ 50.0	0.0	△ 60.0
7.資金繰り	△ 11.1	△ 12.5	0.0	50.0	△ 20.0
8.3ヶ月先の見通し	△ 11.1	△ 37.5	50.0	△ 50.0	△ 20.0

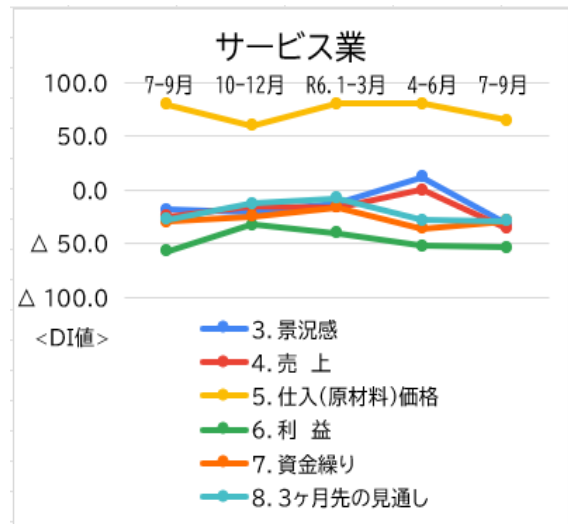
卸売業では全体的に悪化している。特に景況感で 70.0 ポイント、仕入れ価格高騰の影響により利益については前回より 60.0 ポイントの減となっており、厳しい状況が予想される。



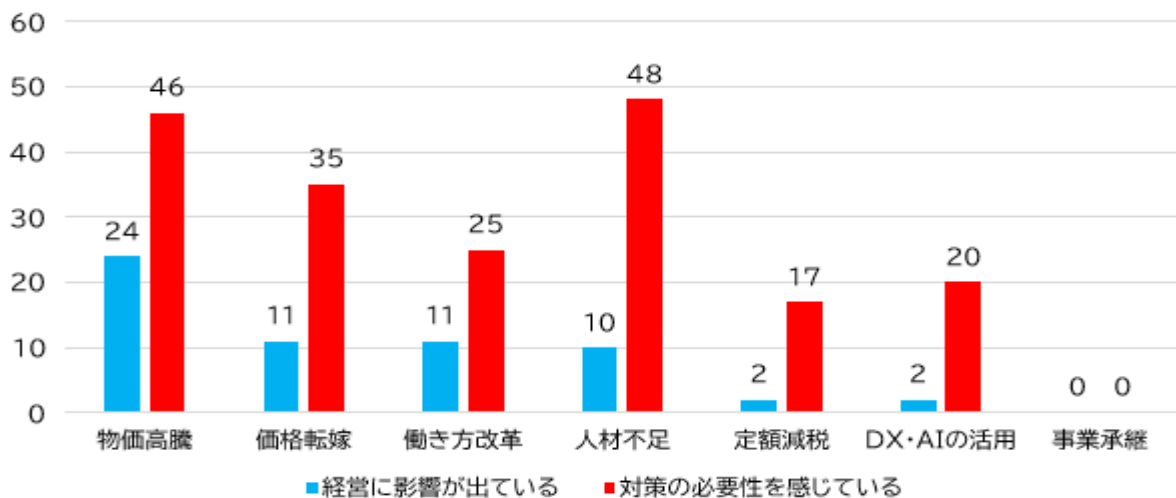
[サービス業の概要]

項目\業種・期間	サービス業				
	R5.7-9月	10-12月	R6.1-3月	4-6月	7-9月
3.景況感	△ 18.2	△ 20.5	△ 12.0	12.0	△ 32.1
4.売上	△ 25.0	△ 15.8	△ 16.0	0.0	△ 35.7
5.仕入(原材料)価格	79.6	59.9	80.0	80.0	64.3
6.利益	△ 56.8	△ 32.3	△ 40.0	△ 52.0	△ 53.6
7.資金繰り	△ 29.6	△ 24.5	△ 16.0	△ 36.0	△ 28.6
8.3ヶ月先の見通し	△ 27.2	△ 12.6	△ 8.0	△ 28.0	△ 28.6

サービス業では資金繰りでは前回調査より 7.4 ポイント改善しているが、景況感で 44.1 ポイント、売上で 35.7 ポイントの減となっており、厳しい状況が予想される。



【経営への影響や対策の必要性について】



上記の結果から、多く事業所にとって物価高騰と人材不足は最も大きな課題であることがうかがえる。課題を解決するために、コスト削減や価格転嫁などの対策を講じる必要はあるが、物価高騰に加え賃上げや人材不足と、小規模事業者にとっても非常に難しい課題となっている。

また、経営への影響は少ないが、2024年6月から導入された定額減税制度は、事務が複雑化し、税務上必要な制度であることから商工会の継続した支援が必要と思われる。

その他、経営に影響を及ぼしている要因や、お気づきの点やご意見ご要望について

- ・仕入れ、人件費の高騰により価格の値上げの必要性を感じます。
- ・一店舗商売(飲食店)のむずかしさを最近つくづく感じる様になった。コロナからの回復も100%ではない。その裏、チェーン店の好調さはうらやましい限りだ。一店舗商売も3~5店舗のグループ化をすれば何かと便利になるでしょうか？その為にクリアしなければならない難点もあるでしょうけど、知恵を絞って打破できないものだろうか？グループ化は同じ市内ではなく県内でと云う意味です。近ければお客様の取り合いになりますからね。これが全国チェーン店、有名店に引けを取らない在来店の生きる道と考えます。
- ・定額減税制度で給与支払事務が複雑化した。給付金にしてほしい(やるなら)
- ・地域サービスの衰退、未来への不安による市場停滞、神栖市の医療崩壊
- ・きちんと今の働き方を考えて行動すれば人手不足は関係ないと思っている。逆に今は小さな会社ほどチャンスだと思う。
- ・今の所なんと将来の不安はありますが今のところは、不変なく仕事をやらせてもらっております。
- ・公共工事が減少している。また資材や機械の高騰が利益を圧迫している
- ・日本政府は、大企業又それらを統合する経団連と結びつきが強く、円安は中小企業にとって死活問題となっている。加えて消費税10%が大変重く、円ドルを120円、消費税0%なら国民全体が潤うのにどうしてしない。
- ・市の入札制度で一般競争入札(80万以上)の為、他市の業者に販売取得。業種によって今割して見積り提出にを！！地場産業がうるおい経済が回る。職場体験受け入れ、子ども110番受け入れ等学校に係る小売業ですが80万以上の一般競争入札では他市に行く可能性が生じる。現に今年の夏に発生(係りの無い他市の業者へ)
- ・日本近海の水産資源が減少し、思うように原材料を確保できない。輸入物も円安で高止まりしておりコストを回収するだけで精一杯。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

景気動向に関するアンケート調査結果(2024年12月)

実施・編集 神栖市商工会

お問合せ TEL0299-92-5111